

佐伯課長が資料 31-2(文部科学省予算)を 5 分余で説明した後、8 分弱の質疑応答があった。(宇宙開発戦略本部が決定した「当面の宇宙政策の推進について」の記述に沿った形で、夫々のプロジェクトに対する予算が割振られている。予算要求額は 194,431 百万円で、22 年度予算額 185,373 百万円より増額であるが、其の内「特別枠」として 27,200 百万円を要求しているので、「特別枠」を除く要求額は 167,231 百万円で、22 年度予算額より僅かに少ない。)

池上委員長:アレですか? 戦略本部の方に出して、で、あの、最終的...あくまで此れ概算要求ですヨネエ。概算要求で、戦略本部は此れはどう云う風に?

佐伯課長:あの、先ず、概算要求としては財務長に出してありますが、ただまあ、戦略本部にも、勿論その、全体調整と云う意味では色々ご紹介を申し上げてる処であります。

池上委員長:じゃあ、他の省庁のも、勿論戦略本部に上がって...で、中で...戦略本部は特に査定はしない訳ですか?

佐伯課長:あの、まあ、その、総合調整の機能を内閣官房って持っておりますので、其の意味での様々な調整って云うものは、勿論御座います。

池上委員長:アア、ハア、ハア、ハア、ハア。

佐伯課長:ただ、あくまで、その、財政面での政府予算案に向けての調整って云うのは財務省が中心にやって御座います。

池上委員長:ハア、ハア。では此れから大変な...亦...

佐伯課長:はい。

池上委員長:後はあの、此の数字的に見ますとネ、昨年より増えてると云う事については、此れはあの、今の、財政の中では中々大変な様に思うんですが、此の辺は課長としてはどうなんでしょうか。

佐伯課長:あの、確かに、概算要求額としては増えて御座いますが、此処に御座います様に特別枠が 272 億御座いますので、ま、基礎枠としては相当切り込んだ中で、其処からまあ、特別枠の中で戦い、取りに行くに云う形になって御座います。特別枠の要望につきましては、まあ、報道等見ますとまあ、3 倍位と云う事で御座いますから、非常に厳しい中でどれだけあの、宇宙についてまあ理解と云いますか、サポートを得られるかと云う事が最終的には仕上がりに大きく影響して来るかナァと思って御座います。

池上委員長:どうぞ。

井上:そう云う意味では、特別枠って云うものを出して行くに当たっては、基礎額の方で或る種の削減をした上で、特別枠と云う様な事を...って云うのが基本的な方針にあったと思うんですけども、基礎額の方を、斯う云う処を削減しましたって云う様な、何かそう云う部分てのは、ハッキリ言える様な分て云うのはあるんでしょうか。

佐伯課長:其処はあの、中々定性的には難しいのですが、あのまあ、宇宙の場合ですとプロジェクト毎になって居りますから、打上げて、プロジェクトが終わると、其の分が減って来て、其れをベースにして、其の部分に今度は新しいプロジェクトの増額を埋め込んで行くに云う形を取ってると云うのが通常の

形態で御座います。で、今回、私共が考えましたのは、矢張り特別枠に相応しいものを特別枠で要求をして行きましょうと。で、エー、そうすると、其の中で、プロジェクトが終わった部分の削減もありますし、また、特別枠の中で、まあ、出て云ったものについては、其の部分は基礎枠と云いますか、一般の概算要求の中からは減って行く訳で御座います。ま、そう云ったものを全体的に見ながら、特別枠で、斯う云う考え方で行きましょうと。先程申し上げました通り、私共は「元気な日本」と云う主旨から、ま、海外に我が国の宇宙技術を展開させる為の取組を、特別枠の中でやりましょうと。そうしますと先程申し上げました様な、ブランドを作る、ブランドを外に打ち出して行く、それからあのー、利用って云う観点、まあ特に環境とか云った意味で、利用と云う観点から広がって行くものを其の中に入れて行く、まあ、人材育成、まあ、そう云うパッケージを考えて、ま、特別枠に持って行きまして、まその、そう云った全体調整の中で、ま、通常のもの削減を図って行くと云う形になります。

井上: 其れはあの、何か言い方は変かも知れませんが、作戦としては、特別枠に入れるって云う事は、何て言うんですか、賭けの要素の大きい様な部分なんですか？ 其のお辺は、あの、どんな感じなんでしょうか。

佐伯課長: そうですネエ、あの、ま、其処は、あの、端的に申し上げまして、通常予算に入れてる場合より、特別枠に入れてた部分で云うのは、非常に激しいキョウソ王にさらされる事になるかと思っております。

井上: では、あの、寧ろ、是非入れたいものを... 此処は割に目玉を入れてる様な印象を持つ訳ですけども...

佐伯課長: ええ、或る意味其処は、キチンと説明をしてですネエ、納得出来るものを矢張り... 行かない限り、何て言いますか... その... より強いものを出して行かなければ取れないだろうと云う事を考えてもおります。

池上委員長: どうぞ。

森尾: 良く分からなかったんだけど、1 頁目の、プロジェクト毎に大体の金額は億円で書いてありますネ。どれが特別枠かって云う様な言い方は、中々難しい？

佐伯課長: ええ、あのー、一寸そう云う風に分けて御座いませんが、此の中では、GCOM-W、それから、GPM/DPL 降水レーダですネエ、それと ALOS の 2 号機が該当します。まあ、其の他に突起はされて居ませんが、利用関係の経費と云うものも一部入っております。宇宙外交の推進の中では HTV-R の研究開発、それから国際協力の戦略的推進、此方を合せましてイチュオコウド(?)が入って御座います。で、エー、(3)の方につきましては「はやぶさ」の後継機のみ、此方が特別枠と云う形になっております。

池上委員長: あの、先程のネ、その、ブランド力を上げると云うのは国際と云う場の中でと云う事ですヨネエ。で、此れはそう簡単ではないと云う認識の下にやらないと。あの、矢張りその、海外から見ると日本は色々良い事やってるんだけどやっぱり内向きですネって云う言い方に、皆そう云うんですヨネ。ですから、若し、ブランド力を上げるって云う事を、一つのあ

の、特別枠を含め、まあ、或る意味での戦略と云う風に考えるのであるとすればネ、相当、どうするかって事を議論しとかないと、いけないんじゃないかと思うんですけどネエ。其の辺どうします？

佐伯課長:あの、当にその、特別枠は今回、まあ、国内的にも解り易いもので入れて御座いますが、矢張りその、特に宇宙科学の世界などと云うのも、非常に日本高いもの御座います。で、斯う云ったものを国際的に展開し、約束をキチッと果たして行き、成果を上げて行くと云う事が、結局あの、海外って云う、そう云った宇宙の技術を評価する人って云うのは矢張り専門家が入って来る訳ですから、そう云った方々に日本の技術って云うものを印象付けて行く。で、更には、此のブランド力とは裏腹の関係にもあると思うんですけども、人材養成で、早い段階から、我が国との協力の中で我が国の技術に親しんで頂くと。そうしますと、矢張りあの、言葉は一寸悪いですが、刷り込みでもないですが、最初に自分達が触れた技術の中で、矢張り親しみが湧き、また、その、安心感が出て来る。そん中で矢張りブランドと云うのが育って行くと云う風に考えて御座います。まあ、そう云った事も含めながら、色々ご相談はさせて頂きたいと思っています。

池上委員長:それからあの、もう一つやっぱり、日本の宇宙ステーション「きぼう」はネ、此れは確かにブランド力が現実問題としてある。それから今仰った様に、あの、寧ろあの、開発途上国のキャパシティ・ビルディング、人材育成については掛け声だけはあったんだけど、今迄中々出来なかったって云う

【議事(2)】平成23年度文部科学省宇宙関係予算概算要求について  
事で、其処はやっぱり是非、今の宇宙ステーション或いは研究分野を含めてネ、キチッとしたプロジェクト作ってきたいですネエ。で、此れホントは大学も関係するから、ホントは文科省の中の教育の方も頑張ってくれないと困る訳です。其の辺是非、斯う、上手く連携を組んでやって行くと云う事を期待したいと思います。何か他に？ 如何でしょうか？...それではあの、此の通り行く事を、宜しくお願い致します。エエト、次の議題は(以下省略)